

学校名	秋田県立大曲農業高等学校
-----	--------------

## 平成29年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

### I 委託事業の内容

#### 1. 研究開発課題名

「DAINOプロジェクトによる農業と地域産業の創造－実践的技術・技能・経営力を身に付けた地域創生を担う人材育成プログラムの研究－」

#### 2. 研究の目的

農業の付加価値を生み出すサービスとブランディングを創り出す人材や地域の産業を結び付け6次産業を生み出す人材の育成、また、豊かな農山村資源をグリーンツーリズムなどと結び付け、その活性化のために活躍できる人材の育成に向けて、次の学習プログラムの研究開発を行う。

##### (1) 【アグリビジネス学習】

「ふるさと秋田」を支える人材の育成に取り組み、地域農業を理解し、地域資源や人的資源を利活用する力を身に付けさせる。

##### (2) 【イノベーション学習】

地域環境に関するプロジェクト活動、農産物のブランディングや高度な技術実習を通じて、地域環境の保護活動や栽培に関する高度な知識、最先端の技術に触れることにより、「ふるさと秋田」の多様な資源を活用する力を身に付けさせる。

##### (3) 【高スキルアップ学習】

地域農業に関わる農業者との交流や地域社会の構成者としての自覚を高めさせ、「ふるさと秋田」の地域課題に主体的・協働的に取り組む力を身に付けさせる。

##### (4) 【組織的マネジメント学習】

農業経営者としての資質を高め、研修を通して農業技術の改良や農業経営上の諸課題についての理解を深め、課題の解決に向けて取り組むことができ、「ふるさと秋田」の農業の発展に貢献できる経営の多角化や高度化の方法を身に付けさせる。

#### 3. 実施期間

契約日から平成30年3月15日まで

## 4. 当該年度における実施計画

### (1) 【アグリビジネス学習】

#### ア アグリマーケティングハウス（仮称）活用活動【2・3学年】

平成30年度供用開始予定のアグリマーケティングハウス（仮称）を活用した活動を展開する。具体的には本校の農産物や加工品の販売に加え、販売実習を通して望ましい勤労観や職業観を養い、地域住民との交流から大農ブランドを確立する活動を行う。アグリマーケティングハウスは平成29年度からの運営を見据え、以下の計画とする。

#### (ア) 農産物販売

学校の敷地内（玄関前）で「大農うめもん市」の開催

#### (イ) 先進校視察

#### イ 地域農産物を使った商品開発【全学年】

大仙地域には伝統野菜が数種類、継承されている。例えば、横沢曲がりネギ（太田地区）、石橋ゴボウ（四ッ屋地区）、亀の助ネギ（四ッ屋地区）、強首ハクサイ（強首地区）等があり、これらの栽培を継承するとともに、伝統野菜を使った郷土料理を改めて理解し、素材を活かした商品開発を関係機関と連携し、伝統野菜のブランディングを図る。

#### ウ 女性農業経営者や女性農業士による出前授業（農業女子P J）【全学年】

県内では女性農業経営者による起業数が全国的に見てもトップクラスである。このことから、国の施策である農業女子プロジェクト（農業女子P J）とも関連付け、県内はもとより、東北地方で活躍している女性農業経営者や女性農業士による講演を通して、女性の農業参入への意識の高揚を図る。

#### エ 大学への外国人留学生との交流【2・3学年】

秋田県立大学や秋田大学、国際教養大学の外国人留学生またはA L Tとの農作業を通して、英語コミュニケーション能力の向上やふるさと秋田の自然景観を見直す機会とする。また、郷土料理や開発した商品の調理・試食を通じて交流の質を高める。大仙地域の特色ある食とそれらを育ててきた景観をセットで見てもらい、その効果を利用し、外国人観光客に農村体験をしていただく。

平成29年度には供用開始予定のセミナーハウスにおいて、農業体験並びに宿泊体験、調理体験を生徒が先生役を務め、宿泊体験プログラムを実施する。

#### (ア) 秋田県立大学、秋田大学、国際教養大学（A I U）留学生との交流をする。

## (2) 【イノベーション学習】

### ア 「田沢湖」プロジェクト【全学年】

田沢湖に関する複数のプロジェクト活動、「電気分解による酸性水の中性化」、「電気分解での環境浄化など活用方法の検討」、「クニマス遺伝子保護」等によって地域資源である田沢湖の環境保全や資源活用について学び、地域の再生と活性化に結び付ける。

#### (ア) 中性化・水素発電プロジェクト 調査及び研究活動

(立命館大学・信州大学・秋田大学と共同)

#### (イ) クニマス遺伝子保護プロジェクト クニマスについて情報収集

### イ スペース・アグリプロジェクト学習【生物工学科2・3学年】

宇宙農業開発ISS実験モジュール「きぼう」での作物栽培試験により、宇宙空間での食料生産方法や栄養面からの有望栽培作物や食用に結び付く生物について学び、既存の農業分野に発展的要素を取り入れる。

宇宙農業サロン（JAXA）へ参加

### ウ 高度な技術実習プロジェクト【2・3学年】

ICT機器を活用し、ドローンの農業分野への応用や施設栽培における高品質な農産物生産のための環境制御、圃場管理、これらを取り入れた次世代施設園芸施設及び県内各地の園芸メガ団地での研修や実習をとおして、高校生の立場から未来の秋田の農業戦略を考えることで、地域農業の方向性を提案する。

### エ 高等教育機関や研究機関等との共同研究プロジェクト【全学年】

秋田県がもつ多様な資源を活かして、産業の振興を図る視点から、「秋田ブランド」の構築に向けた6次産業化の発想や起業家精神を育む取組を各関係機関と連携しながら行い、より高度な知識や最先端の技術を身に付けた人材を育成する。

## (3) 【高スキルアップ学習】

### ア 大仙市農業研修生等との相互交流

農業後継者を志す大仙市農業研修生等とともに、農業に関わる講義を受講することにより、農業後継者を目指す生徒の意欲を高める。

また、高校の教員も研修生に対して、各専攻の基礎的な概論の講義を行うことで、教科の深化や横断的な視点を含め、教員自らの資質向上を図り、その成果を共有できる体制の整備を進める。

### イ 農業・農村に係るファシリテーション研修

卒業後は地域農業及び地域産業の担い手となり、地域社会の構成員となる生徒に対して、秋田県で想定されている少子高齢化、人口減少に対応できる持続可能な地域社会の在り方を考えさせ、生徒一人一人がふるさとを支え、秋田に貢献しようとする意識をもち、地域の課題の解決に向けて、取り組もうとする意欲を高めるための研修を行う。

#### ウ 「食の6次産業化プロデューサー」(愛称:食Pro.)研修

国の成長戦略と位置付けられている農業の6次産業化、その実現のためにはいくつかの課題がある。どのように地域資源を活用して付加価値を付け、地域活性化に結び付けていくかという点が大きな課題であり、その推進のためのキーポイントとなるのが人材育成である。6次産業化を進めるためには、一戸の農家で完結することも可能であるが、それが地域農業の活性化につながるとは考えにくい。地域が活性化するためには事業に参加する農家が多い方がよい。そのためには、必然的に多様な分野から様々な人々が関わるのが不可欠となる。6次産業化については平成32年には10兆円を目標としている。その実現のために農産物の高付加価値化する事業に携わり、市場開拓やそれに参画する生産から販売サービスまでの各段階の調整を行うことができる人材育成が必要となる。

そのための初歩的段階として「食Pro」の育成プログラムであるLEVEL 1(エントリーレベル)から始め、6次産業化論、食品加工、食品流通を始めとする基礎概論を学び、財務管理、マーケティングなどに範囲が広がるLEVEL 2につなげたい。また、高校生のみならず、大仙市農業者研修生、地域の農業経営者、食品関連事業者などにも「食Pro」講義の輪を広げ、高校生とともに学び、地域おこしや地域ブランド創出のためのグループワークの場を設定する。

#### エ 農業経営セミナー

秋田県では人口減少が急速に進行する全国有数の高齢県であり、後継者不足に伴う農業の担い手育成は喫緊の課題である。また、地域農業の将来のために、農産物のマーケティングや商品開発、事業開発を手がける人材の確保も重要な課題である。農業経営者としての資質を備えるためにアグリフューチャージャパン等に講師を依頼し、革新的なビジネスモデルを構築し、地域をリードする人材を育成する。

### (4) 【組織的マネジメント学習】

#### ア 長期インターンシップ(デュアルシステム)

これからの農業教育は単なる農業後継者を育成するだけでなく、農業経営者の育成にも取り組まなければならない。マネジメント学習を充実させるため、平成20年から22年に行われた「地域産業の担い手育成プロジェクト」(文部科学省・農林水産省共同事業)で培われた人的ネットワークを活用し、先進農家、農業法人及び研究機関、加えて農業に参入している企業等で長期インターンシップ(デュアルシステム)を実施し、農業経営者としての資質を育成する。

(ア) 先進農家での体験実習 先進農家、農業法人、園芸メガ団地

(イ) 研究機関での体験実習 農業試験場、果樹試験場、畜産試験場  
林業研究研修センター、JA全農(単位JA)  
総合食品研究センター、就農者研修センター

(ウ) 学科関連施設での体験実習 食品製造メーカー、食品加工グループ  
介護施設、保育施設

イ 学校設定科目「農と食」の開発と実践【農業科学科2・3学年】

秋田県農業や地域農業の自然・農村生活について、探究的な学習活動を通して、地域や農山村の特色や文化等を理解させ、地域の動向に興味と関心をもたせるとともに、地域資源の保全と活用について考えさせ、地域の振興に寄与できる能力と態度を育成する。

また、秋田県立農業科学館との連携を図り、資格試験である「農業科学館ナビゲーター」の取得を啓発し、セカンドスクールとしても利用されている農業科学館でのナビゲーターとして、その活動に参画する。

【スケジュール】

活動時期	活 動 の 内 容	
	委員会・研究開発	学習プログラムの実施計画
4月	○第1回研究推進委員会 ◆第1回運営指導委員会	イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト スキルアップ学習→ 「食P r o .」 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
5月	○第2回研究推進委員会	イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト スキルアップ学習→ 「食P r o .」 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
6月	○第3回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 「伝統野菜」講演会 イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト イノベーション学習→ プロフェッショナルによる指導 スキルアップ学習→ 「食P r o .」 スキルアップ学習→ 農業研修生等との交流（1回目） 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ協議 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
7月	○第4回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 「農業女子」講演会 イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト

		イノベーション学習→ プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 「食P r o .」 高スキルアップ学習→ 教員研修 組織的マネジメント学習→ 「農と食」 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ
8月	○第5回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 外国人留学生との交流事業「大曲の花火」 を通じて イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト □信州大学訪問 □京都大学、立命館大学訪問 スキルアップ学習→ 「食P r o .」 高スキルアップ学習→ 教員研修 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
9月	○第6回研究推進委員会	イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト イノベーション学習→ プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 農業研修生等との交流（2回目） 高スキルアップ学習→ 農業経営セミナー 高スキルアップ学習→ 「食P r o .」 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
10月	○第7回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 「伝統野菜」講演会 イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト

		クニマス遺伝子保護プロジェクト イノベーション学習→ プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 「食P r o .」 高スキルアップ学習→ 農業経営セミナー 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 組織的マネジメント学習→ 「農と食」 全国産業教育フェア秋田大会
11月	○第8回研究推進委員会	アグリビジネス学習→ 「農業女子」講演会 イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト イノベーション学習→ プロフェッショナルによる指導 高スキルアップ学習→ 「食P r o .」 スキルアップ学習→ 農業研修生等との交流（3回目） 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
12月	○第9回研究推進委員会 ◆第2回運営指導委員会	イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト スペースアグリプロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト 高スキルアップ学習→ 「食P r o .」 高スキルアップ学習→ ファシリテーション研修 高スキルアップ学習→ 教員研修 組織的マネジメント学習→ 長期インターンシップ 組織的マネジメント学習→ 「農と食」
1月	○第10回研究推進委員会 ◎研究成果報告書（2年次）の作成	イノベーション学習→ 田沢湖プロジェクト クニマス遺伝子保護プロジェクト 高スキルアップ学習→ 教員研修



## 5. 実施体制

【主体的・協働的な学習としてプロジェクト学習法を取り入れ、生徒の意欲を高める体制】

本校では生徒に主体的・協働的な学習を通して、農業に関する知識・技術の定着を図りながら、地域との関わりの中から課題を発見し、その課題解決に向けて取り組むことができる人材育成を目指している。

農業科学科・食品科学科・園芸科学科・生活科学科の1年次は科目「農業と環境」で、農業科学科・生物工学科は2・3年次に科目「課題研究」で、生活科学科は3年次に科目「課題研究」にプロジェクト発表会を実施している。2・3年生の発表会に下級生も参加することで、プレゼンテーション能力の向上を図っている。また、参加する者は生徒のみとする従来の発表会のスタイルから地域住民や保護者を招いての発表会のスタイルとし、農業高校のプロジェクト活動をより地域に発信する機会とする。

さらにこれを充実させるため、連携先である大仙市農業研修生との相互交流により、本校生徒、教員及び研修生の識見を深めたり、共同研究を行うための機会とする。

### (1) 研究担当者

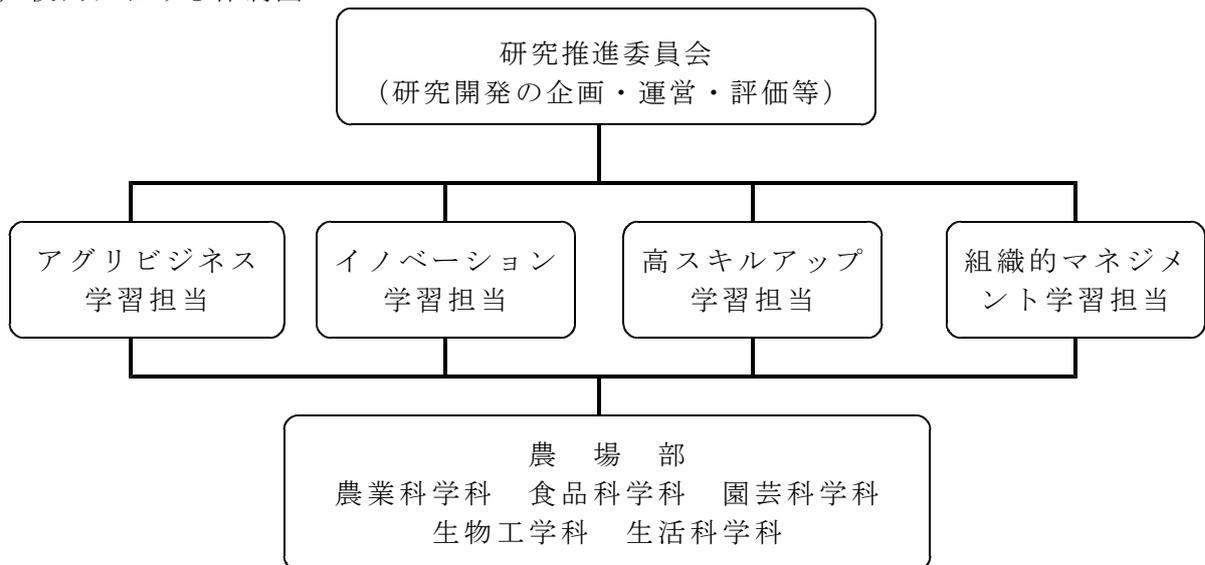
氏名	職名	役割分担・担当教科
佐々木孝之	教諭	◎研究開発主任（事業統括）・教科「農業」（果樹）
佐々木惇	教諭	○研究開発副主任・マネジメント担当・教科「農業」（畜産）
高階市太郎	教諭	○アグリビジネス担当・教科「農業」
大沼克彦	教諭	○イノベーション担当・教科「農業」
照井豊和	教諭	○スキルアップ担当・教科「農業」
伊藤寿人	教諭	○アグリビジネス副担当・教科「農業」
大坂淳	教諭	○イノベーション副担当・教科「農業」
石垣ルリ子	教諭	○スキルアップ副担当・教科「外国語」（英語）
小松国子	教諭	○マネジメント副担当・教科「家庭」
相馬等	事務長	事業推進・事務
佐藤幸嗣	事務長補佐	事業推進・事務
今田陽子	主任	事業推進・事務
渡邊歩	主任	事業推進・事務
土屋深緒	教諭	スキルアップ担当・教科「国語」
千葉裕子	教諭	スキルアップ担当・教科「地理歴史・公民」
加納綾子	教諭	スキルアップ担当・教科「理科」
菅原久美子	教諭	スキルアップ担当・教科「数学」
山本力	教諭	スキルアップ担当・教科「保健体育」
高川健悟	教諭	イノベーション担当・教科「農業」（森林科学）
古瀬利彦	教諭	イノベーション担当・教科「外国語」（英語）
平塚祥広	教諭	イノベーション担当・教科「農業」（草花）
加藤雅隆	教諭	イノベーション担当・教科「地理歴史・公民」
佐藤香	教諭	イノベーション担当・教科「国語」
石戸将太	教諭	イノベーション担当・教科「保健体育」
佐々木美穂	臨時講師	イノベーション担当・教科「農業」
高橋寿徳	教諭	アグリビジネス担当・教科「農業」（作物）
太田羽純	教諭	アグリビジネス担当・教科「保健体育」
高橋寿宏	教諭	アグリビジネス担当・教科「数学」
羽川尚	教諭	アグリビジネス担当・教科「芸術」（音楽）
京極ゆう子	教諭	アグリビジネス担当・教科「家庭」
佐々木由貴子	教諭	アグリビジネス担当・教科「家庭」
佐々木梢	教諭	アグリビジネス担当・教科「地理歴史・公民」

加藤美紀	教 諭	マネジメント担当・教科「外国語」(英語)
キャリン・ハーバー	A L T	マネジメント担当・教科「外国語」
河村祐太郎	臨時講師	マネジメント担当・教科「保健体育」
田口健一	教 諭	マネジメント担当・教科「農業」(畜産)
藤井亨	教 諭	マネジメント担当・教科「農業」(作物)
風登友美	教 諭	マネジメント担当・教科「家庭」
和泉有紗	教 諭	マネジメント担当・教科「農業」(野菜)
小松清高	臨時講師	マネジメント担当・教科「農業」(野菜)
佐々木悠華	教 諭	マネジメント担当・教科「理科」(化学)
高橋奨子	臨時講師	マネジメント担当・教科「国語」
佐藤晴輝	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(畜産)
三嶋登忍	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(食品加工)
山代和也	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(草花)
佐々木尚人	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(作物)
黒田一久	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(作物)
小林和成	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(野菜)
佐藤農	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(果樹)
佐藤潤之介	実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(畜産)
進藤純雄	臨時実習助手	マネジメント担当・教科「農業」(生物工学)

(2) 研究推進委員会

氏 名	所属・職名	役割分担・専門分野等
岸弘昭	秋田県教育委員会 高校教育課指導班・指導主事	指導助言・教科「農業」
伊東金一	秋田県立大曲農業高等学校・校長	相談役・教科「農業」
佐藤彰久	秋田県立大曲農業高等学校・教頭	相談役・教科「理科」
藤原淳	秋田県立大曲農業高等学校・教頭	相談役・教科「農業」
佐々木孝之	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	◎研究開発主任(事業統括) 教科「農業」(果樹)
佐々木惇	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○研究開発副主任 ○マネジメント担当 教科「農業」(畜産)
高階市太郎	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○アグリビジネス担当 教科「農業」(農業経営)
大沼克彦	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○イノベーション担当 教科「農業」(生物工学)
照井豊和	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○高スキルアップ担当 教科「農業」(生物工学)
伊藤寿人	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○アグリビジネス副担当 教科「農業」(食品加工)
大坂淳	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○イノベーション副担当 教科「農業」(生物工学)
石垣ルリ子	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○高スキルアップ副担当 教科「外国語」(英語)
小松国子	秋田県立大曲農業高等学校・教諭	○マネジメント副担当 教科「家庭」
佐藤幸嗣	秋田県立大曲農業高等学校・事務長補佐	○事業推進・事務

(3) 校内における体制図



(4) 運営指導委員会

氏名	職名	役割分担・専門分野等
長濱健一郎	生物環境学科 (秋田県立大学)	委員長 (座長)、指導助言
眞壁聡子	高校教育課長 (秋田県教育庁)	指導助言、教育行政
濱田陽	秋田大学教育推進総合センター 准教授	指導助言、教育
福田正人	農業振興部担い手育成課長 ((社) 秋田県農業公社)	指導助言
嵯峨成一	営農指導部長 (JA秋田おぼこ)	指導助言
渡辺重美	農林部農業振興課長 (大仙市)	指導助言、農業・産業の振興
阿部浩	農林部農業振興普及課長 (秋田県仙北地域振興局)	指導助言、農業政策
沓澤金哉	館長 (秋田県立農業科学館)	指導助言
門脇富士美	農家民宿「星雪館」経営	指導助言
大和田しずえ	合資会社「エコニコ農園」	指導助言

(5) 定性目標と効果測定

研究開発	定性目標	効果測定
●アグリビジネス学習プログラムの開発と実践		
アグリマーケティングハウス活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○販売実習</li> <li>○商品開発</li> <li>○販売以外の活用方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○稼働日数14日</li> <li>○商品開発5件</li> <li>○販売以外の活用(市民ホールとして)</li> </ul>
地域農産物を使った商品開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統野菜を使用した商品開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統野菜の栽培方法を理解し、それを使用した商品開発を手掛けることができたか。</li> <li>□観察法(行動、発言、発表)</li> <li>□作品法(ノート、プリント)</li> <li>□アンケート調査</li> </ul>
女性農業経営者・女性農業士による出前授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業の各分野への課題意識と意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○女性の立場からの講義を受け、農業の各分野の課題解決に取り組もうとする生徒ができたか。</li> <li>□観察法(行動、発言、発表)</li> <li>□作品法(ノート、プリント)</li> <li>□アンケート調査</li> </ul>
大学の留学生等との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門的な知識と技術の習得</li> <li>○地域の伝統文化紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学の留学生等との交流を意欲的に取り組むことができたか。</li> <li>○「大曲の花火」との連携を図り、留学生等との交流を主体的・協働的に取り組むことができたか。</li> <li>□観察法(行動、発言、発表)</li> <li>□作品法(ノート、プリント)</li> <li>□アンケート調査</li> </ul>
●イノベーション学習プログラムの開発と実践		
「田沢湖」プロジェクト 「電気分解による酸性水の中性化」、「電気分解で発生する水素の活用方法」、「クニマス遺伝子保護」	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロジェクト学習に対する意欲の向上</li> <li>○田沢湖に関する理解</li> <li>○クニマス遺伝子保護の在り方を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「田沢湖」の抱える課題を理解することができたか。</li> <li>○課題解決のための方策や行動を意欲的に行動したり、協働的に取り組むことができたか。</li> <li>○クニマス保護のための解決策を検討することができたか。</li> <li>□観察法(行動、発言、発表)</li> <li>□作品法(ノート、プリント)</li> <li>□アンケート調査</li> </ul>
スペース・アグリプロジェクト I S S (国際宇宙ステーション)、	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペース・アグリについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スペース・アグリについて基本的な理解ができた</li> </ul>

<p>実験モジュール「きぼう」での作物栽培試験</p>	<p>の基本的知識の理解 ○宇宙空間での食料生産方法や食生活について</p>	<p>か。 ○宇宙空間での食料生産や食用に結びつく生物について、理解し将来的な宇宙農業に結びつけることができたか。 □観察法（行動、発言、発表） □作品法（ノート、プリント） □アンケート調査</p>
<p>高度な技術実習プロジェクト</p>	<p>○次世代施設園芸施設や園芸メカ団地で研修や実習 ○高校生から将来的な秋田県農業の姿を提言</p>	<p>○これからの農業経営者としての資質を向上させるため、意欲的に講義に参加できたか。 □観察法（行動、発言、発表） □作品法（ノート、プリント） □アンケート調査</p>
<p>高等教育機関や研究機関等との共同研究プロジェクト</p>	<p>○多様な資源を生かすためのプロジェクト活動 ○「秋田ブランド」を高校生の立場から構築できたか ○6次産業化に取り組むことができる人材</p>	<p>○プロジェクト活動に主体的・協働的に参加することができたか。 ○「秋田ブランド」構築のために意欲的に取り組んでいるか。 ○6次産業化を理解し、地域の農産物に付加価値をつけることが主体的・協働的に行うことができたか。 □観察法（行動、発言、発表） □作品法（ノート、プリント） □アンケート調査</p>
<p>●高スキルアップ学習プログラムの開発と実践</p>		
<p>大仙市農業研修生との相互交流</p>	<p>○農業学習に対する意欲の向上 ○地域農業の理解 ○農業教育方法の開発</p>	<p>○相互交流を実施することで、相互の課題を共有することができたか。 ○地域農業の課題や有利性を理解することができたか。 ○研修生等に対して、教員による講義を通じ、新たな教育方法を開発できたか。 □観察法 □アンケート調査</p>
<p>食の6次産業化プロデューサー（食Pro）</p>	<p>○6次産業化の基本的知識を理解する ○地域内資源を活用して付加価値商品開発 ○地域ブランドづくり</p>	<p>○「食Pro. 育成プログラム」指定校への認証申請 ○6次産業化を理解し、地域内資源を活用することができたか。 ○地域ブランドづくりのために付加価値をつけた商</p>

		○地域アイディ ンティティづ くり	品開発ができたか。 □作品法（ノート、プリン ト） □アンケート調査
農業経営セミナー		○農業経営のための実践的、 高度なスキル 習得	○農業経営者としての資質 を向上させるため、意欲 的に講義に参加できたか。 □観察法（行動、発言、発 表） □作品法（ノート、プリン ト） □アンケート調査
●組織的マネジメント学習プログラムの開発と実践			
学校設定科目「農と食」の 開発と実践	学校設定科目「農と食」の教材の改善	○学校設定科目 「農と食」の 教材の完成	
	学校設定科目「農と食」の実施	○地域農業に対する興味・関 心の向上 ○農業学習に対する意欲の向 上 ○地域農業の理 解	○地域農業に対する興味・ 関心が高まったか。 ○農業学習に対する意欲が 高まり、主体的・協働的 に調査・研究に取り組む ことができたか。 ○地域農業への理解が深ま ったか。 □観察法（行動、発言、発 表） □アンケート調査 □考査
産業界 や高等教 育機関等 と連携し た学習活 動	プロフェッショナル 人材による実践的な指 導の実施（大学教員等 活用事業、農業試験場 研究員の出前講座）	○高度な知識と 技術への興味 ・関心の向上 ○農業学習に対 する意欲の向 上 ○専門的な知識 と技術の習得	○次世代施設園芸施設につ いての知識と技術への興 味・関心が高まったか。 ○農業学習に対する意欲が 向上したか。 ○専門的な知識と技術の習 得が日本農業技術検定3 級合格率、80%に結び ついたか。 □観察法（行動、発言、発 表） □作品法（ノート、プリン ト） □アンケート調査 □3級合格率、80%
	長期インターンシッ プ	○産業界や継 続教育機関等 に対する興味 ・関心の向上 ○望ましい勤労 観・職業観の 醸成 ○専門的な知識 と技術の習得	○長期インターンシップにつ いて興味・関心が高ま り、10日以上の実習に 参加する生徒がでてきた か。 ○望ましい勤労観、職業観 が醸成することができた か。 ○長期休業中を利用し、専 門的な知識や技術を習得
	インターンシップの 実施		
	長期休業中を利用し た先進地等における現		

場実習の実施		しようとする生徒がでてきたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> アンケート調査
産業界や高等教育機関等との共同研究の実施	<input type="checkbox"/> 地域農業の各分野への課題意識と貢献意欲の向上 <input type="checkbox"/> 専門的な知識と技術の深化・総合化	<input type="checkbox"/> 地域農業の各分野の課題を理解し、主体的・協働的に課題解決に取り組んだか。 <input type="checkbox"/> 課題解決に取り組むことにより、専門的な知識と技術の深化・総合化が図れたか。 <input type="checkbox"/> 観察法（行動、発言、発表） <input type="checkbox"/> アンケート調査

定性目標と定量目標

研究開発		定性目標	定量目標
●アグリビジネス学習プログラムの開発と実践			
アグリマーケティングハウス活用		○販売実習 ○商品開発 ○販売以外の活用方法	○稼働日数14日 ○商品開発5件 ○販売以外の活用(市民ホールとして)
地域農産物を使った商品開発		○伝統野菜を使用した商品開発	○商品開発件数4件
女性農業経営者・女性農業士による出前授業		○農業の各分野への課題意識と意欲の向上	○年2回以上
大学の留学生等との交流		○専門的な知識と技術の習得 ○地域の伝統文紹介	○年2回以上の交流活動 ○「大曲の花火」との連携を図る
●高スキルアップ学習プログラムの開発と実践			
大仙市農業研修生との相互交流		○農業学習に対する意欲の向上 ○地域農業の理解 ○農業教育方法の開発	○相互交流年3回以上 ○教員による講義年2回
食の6次産業化プロデューサー(食Pro.)		○6次産業化の基本的知識を理解する ○地域内資源を活用して付加価値商品開発 ○地域ブランドづくり ○地域アイディンティティづくり	○「食Pro. 育成プログラム」指定校への認証申請 ○2年目 4日間受講 ○3年目 5日間受講
農業経営セミナー		○農業経営のための実践的、高度なスキル習得	○就農啓発セミナー各クラス1回(計5回)
●組織的マネジメント学習プログラムの開発と実践			
学校設定科目「農と食」の開発と実践	学校設定科目「農と食」の開発	○学校設定科目「農と食」の教材の完成	
	学校設定科目「農と食」の実施	○地域農業に対する興味・関心の向上 ○農業学習に対する意欲の向上 ○地域農業の理解	○講演会：3回 ○調査・研究のまとめ ○成果発表会の回数：2回以上
産業界や高等教育機関等と連携	プロフェッショナル人材による実践的な指導の実施	○高度な知識と技術への興味・関心の向上	○実施回数：各学科1回以上 ○日本農業技術検定3級

した学習活動	(大学教員等活用事業、農業試験場研究員の出前講座)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業学習に対する意欲の向上</li> <li>○専門的な知識と技術の習得</li> </ul>	合格率：80%
	長期インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産業現場や継続教育機関等に対する興味・関心の向上</li> <li>○望ましい勤労観・職業観の醸成</li> <li>○専門的な知識と技術の習得</li> </ul>	○実習の日数：10日以上
	インターンシップの実施		○実習の日数：3日
	長期休業中を利用した先進地等における現場実習の実施	○望ましい勤労観・職業観の醸成	○実習の日数：4泊5日以上
産業界や高等教育機関等との共同研究の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域農業の各分野への課題意識と貢献意欲の向上</li> <li>○専門的な知識と技術の深化・総合化</li> </ul>	○共同研究の数：3 (各学科1件以上)	

評価規準（案）

【アグリビジネス学習】

到達目標：地域農業を理解し、地域資源や人的資源を利活用する力を身に付ける。

○アグリマーケティングハウス活用

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	本校で販売する農産物や加工品を理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル2	アグリマーケティングハウスでの販売活動により、地域住民と交流することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	アグリマーケティングハウスの販売活動以外の利用方法を考えることができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	アグリマーケティングハウスを地域のコミュニティとなるような活動内容を提案、計画に基づき実行することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

○地域農産物を使った商品開発

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	農業が生活や環境に関連していることを理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル2	地域農業や地域の伝統野菜、栽培方法を理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	伝統野菜を栽培、種子の保存ができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	伝統野菜を保護する活動や商品開発などに着手することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

○女性農業経営者や女性農業士による講演

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	真摯な姿勢で講演を聴くことができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル2	講演後、農業学習に対する意欲が向上している。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	農業経営に占める女性従事者の割合は高く、重要な位置づけであることが理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	講演から、将来の具体的な農業経営やビジネスモデルを計画することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

○外国人留学生等との交流

レベル	評価規準	評価尺度
レベル 1	外国人と野菜栽培等で交流することに興味・関心がある。	100%興味・関心がある 70%興味・関心がある 50%興味・関心がある 30%興味・関心がある
レベル 2	積極的に外国人と交流した。	100%交流した 70%交流した 50%交流した 30%交流した
レベル 3	英語を使って積極的に外国人と交流した。	100%交流した 70%交流した 50%交流した 30%交流した
レベル 4	農業に関わる用語を英語で表現することができた。	100%できた 70%できた 50%できた 30%できた

【イノベーション学習】

到達目標：地域課題のプロジェクト活動や地域の農産物を活用したブランディング、高度な技術実習を通じて課題解決のための方法や栽培に関する高度な知識、技術に触れることにより、多様な資源を活用、新しい価値を提案する力を身に付けている。

○「田沢湖」プロジェクト、スペースアグリプロジェクト、共同研究プロジェクト

レベル	評価規準	評価尺度
レベル 1	この学習に参加することにより、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 70%向上した 50%向上した 30%向上した
レベル 2	課題解決のための方法やその取り組みを協働的に取り組むことができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル 3	プロジェクト学習の課題設定について、地域が抱える課題に積極的に取り組んでいる。	100%取り組んだ 70%取り組んだ 50%取り組んだ 30%取り組んだ
レベル 4	課題解決の方法を地域に発信し、その普及に努めることができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

○高度な技術実習

レベル	評価規準	評価尺度
レベル 1	農業生産に関わる新たな技術や施設に興味・関心をもつことができる。	100%興味・関心をもった 70%興味・関心をもった 50%興味・関心をもった 30%興味・関心をもった
レベル 2	農業とICT（情報通信技術）について、興味・関心をもつことができる。	100%興味・関心をもった 70%興味・関心をもった 50%興味・関心をもった 30%興味・関心をもった
レベル 3	農業分野へのICTの関わりがより増してきたこと	100%理解している 70%理解している

	を理解している。	50%理解している 30%理解している
レベル4	農業とICTの関わりについて、より学びたいという姿勢がでてきた。	100%姿勢が見える 70%姿勢が見える 50%姿勢が見える 30%姿勢が見える

### 【高スキルアップ学習】

到達目標：地域農業に関わる農業者との交流や地域社会の構成者としての自覚を高めさせ、地域課題に主体的・協働的に取り組むことができる力を身に付けている。

#### ○農業研修生との交流学习

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	この学習に参加することにより、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 70%向上した 50%向上した 30%向上した
レベル2	農業者との交流学习により地域社会が抱える課題について理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	地域の農業者との交流に関わり、農業者との意見交換などができ、自らの考えを発表することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	農業者との交流により、地域社会の構成者としての自覚が高まり、地域農業の課題や有利性を理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

#### ○ファシリテーション研修

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	研修に積極的に参加できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル2	研修において、参加した人と様々な方法で交流することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	打ち解けるための方法を身に付けることができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	この研修を普段の学習や特別活動に活かすことができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

#### ○農業経営セミナー

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	真摯な姿勢で講演を聴くことができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル2	講演後、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 70%向上した 50%向上した 30%向上した
レベル3	農業経営に占める女性従事者の割合は高く、重要な	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

	位置づけであることが理解できる。	
レベル4	講演から、将来の具体的な農業経営やビジネスモデルを計画することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

### 【組織的マネジメント学習】

到達目標：農業経営者としての資質を高め、研修を通して農業技術の改良や農業経営上の諸課題について理解を深め、課題解決のために取り組み、農業の発展に貢献できる経営の多角化や高度化の方法を身に付けている。

#### ○長期インターンシップ

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	地域農業に対する興味・関心を高め、農業学習に対する意欲が向上している。	100%向上した 70%向上した 50%向上した 30%向上した
レベル2	地域農業を理解し、農業学習に対して、主体的・協働的に調査・研究に取り組むことができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	農業に関する高度な知識・技術に対して興味・関心を持ち、産業現場や高等教育機関等での農業学習（研修）に対して意欲的に取り組むことができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	地域農業の課題意識、貢献意識が向上し、習得した専門的知識・技術をより深化・総合化させることを身に付けている。	100%身に付けている 70%身に付けている 50%身に付けている 30%身に付けている

#### ○学校設定科目「農と食」

レベル	評価規準	評価尺度
レベル1	授業に意欲的に参加できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル2	地域農業や伝統野菜について理解できる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル3	伝統野菜の活用の仕方を提案することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる
レベル4	地域農産物の活用方法を提案することができる。	100%できる 70%できる 50%できる 30%できる

「SPH3年間の学びを農業学習の学び」につなげるために、「ポートフォリオ」を導入する。SPHに関わる活動に参加した際、事業の目標や記録、学習プリント、自己評価用紙、相互評価用紙、教職員からのアドバイス、生徒自身が収集した資料等を時系列にファイリングし、活用する。自己評価をする際には生徒自身に評価項目を設定させ、生徒の参加意識を高める。また、情報収集や資料作成のためにパソコンを使用するので、電子ポートフォリオを活用する。活用方法としては、事業に参加した成果をまとめる時に利用するプレゼンテーションは制作途中のファイルを上書きせず、時系列で保存、それぞれの評価（自己、相互、教職員）に活用したり、農業研修生との相互交流学習ではビデオを活用し、

発表態度の変容などの参考にしたり、付箋や電子黒板を利用した記録の残し方にも工夫を重ねる。

## 6. 研究内容実施時期

研究内容												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アグリビジネス学習 「伝統野菜」講演会	講師 交渉		講演 調査	評価 課題	講師 交渉		講演 調査	評価 課題				
アグリビジネス学習 「農業女子」講演会		講師 交渉		講演 調査	評価 課題	講師 交渉		講演 調査	評価 課題			
アグリビジネス学習 留学生との交流		事業 計画			交流 活動 調査	交流 活動 調査		交流 活動 調査	評価 課題			
イノベーション学習 田沢湖プロジェクト	実験 研究 活動	実験 研究 活動	研究 活動	大学 訪問 調査 評価	実験 研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	大学 訪問 調査 評価	研究 活動	研究 活動	研究 活動
イノベーション学習 クニマス遺伝子保護 プロジェクト	研究 活動	研究 活動	研究 活動	広報 活動 クニ マス 資料館	評価	研究 活動	研究 活動	大学 訪問 調査 評価	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動
イノベーション学習 スペース・アグリプ プロジェクト	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動	JAXA 訪問 調査	評価 課題	研究 活動	研究 活動	研究 活動	研究 活動
イノベーション学習 プロフェッショナル による指導	講師 選定		食品 製造 調査 評価	6次 産業 調査 評価		機能 野菜 伝統 野菜 調査 評価	草花 調査 評価	ドロー ン 調査 評価				
高スキルアップ学習 教員研修	研修 先 選定			研修 評価 課題	研修 評価 課題				研修 評価 課題	研修 評価 課題		
高スキルアップ学習 農業研修生との交流	計画 立案		第1 回交 流学 習 調査 評価		計画 立案	第2 回交 流学 習 調査 評価	計画 立案	第3 回交 流学 習 調査 評価	次年 度へ の課 題			
高スキルアップ学習 農業経営セミナー					講師 選定		講演 評価 課題	講師 選定		講演 評価 課題		
高スキルアップ学習 「食Pro」講座	○	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
高スキルアップ学習				講師		研修			研修			

ファシリテーション研修				選定		1回目			2回目			
組織的マネジメント 学習 長期インターンシップ	研修 生募 集	研修 内容 検討	研修 調査 評価 課題	次 年 度 へ の 課 題								
組織的マネジメント 学習 学校設定科目「農と 食」プログラム実践	ガイ ダン ス	実践 講師 選定	実践	実践 講演 調査	実践	実践 講演 調査	実践	実践 講演 調査	実践	実践	実践	実践 調査 評価 課題

※実施時期は、事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。

## 7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交 付 者	交 付 額	交 付 年 度	業 務 項 目
なし				

## 8. 知的財産権の帰属

- (○) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。  
 ( ) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

## 9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有  無

## II 委託事業経費

別紙1に記載

## III 事業連絡窓口等

別紙2に記載